

- 1 議員は原則2期3年でローテーション
- 2 議員報酬は市民の政治活動資金に
- 3 選挙はカンパとボランティアで

八王子の学校給食から 食料安全保障・気候危機 を考える



家畜の親やエサ、農産物の化学肥料など、食材に係わる多くを輸入に頼っている日本。世界状況など様々な理由で輸入に制限がかかり、食料が手に入らなくなれば、子どもたちの給食はどうなるのでしょうか。

穀物や野菜の種(たね)、家畜の種(しゅ)を国内で持ち、真に国内自給率を高めていくことは大変重要です。また、農薬や添加物など食品の安全性についてはもちろん、食材の適正価格やフードロス問題、海の環境変化(海水温上昇で、海苔が採れなくなっている!)等、様々な問題が存在します。農業政策から食料政策への転換を軸に、農業と食料のローカリゼーション(地域化)について、一緒に考え、行動してゆきましょう!

〈野菜・果物〉

もっとすすめたい。地産地消とオーガニック

〈米・パン〉

●地場野菜使用率 34%

給食センター整備に伴って、使用率が上がりました!

→オーガニック野菜・オーガニック米の実現を!

「使い切れない農地」を活かして、小さい農業でオーガニック給食を目指し、可能性を模索していきます。先進的取り組みとして、準農家制度、マイクロファーマーズスクール、ネクストファーマー制度等に注目!

●八王子の農家さんありがとう!

新米の季節、年に一度は八王子産米を公保育園・全小中学校で提供。それ以外は、収穫量や価格の面で難しい状況です。

→月に2~3度程度のパン食は、国産小麦パンを!

価格が高い等の理由で選択できていない現状ですが、国産小麦の生産者を増やしていくためにも「食べて応援」が必要です。

気候危機で食べられなくなる?

その食材は「国産」だけど...
エサは?親は?

輸入に頼るグローバル化で大丈夫? 〈魚・貝・海草〉

〈牛(牛乳)・豚・鶏(卵)〉

●家畜のエサの多くは輸入!

日本の飼料 ベース自給率	肉用	牛9%	豚6%	鶏8%
	鶏卵	13%	乳牛	27%

(出典:農水省HP)

特に、穀物主体の濃厚飼料は88%輸入に頼っている現状

→飼料米の需要拡大へ

【農水省の目標=2030年までに飼料用米国内自給率15%】
国産飼料用米を家畜が食べ、家畜の糞を堆肥に活用。
農業と畜産の連携が重要です。

●「国産」でも親は海外から輸入

採卵鶏96%、肉用鶏98%が外国種。常にヒナを輸入し続けないと、鶏卵・鶏肉生産は維持できないシステムです。
※1962年外国鶏種の輸入自由化により、孵卵場が激減。

●気候危機!海水温上昇!磯焼け!酸性化!

環境変化で生息できない海洋生物が急増しています。埋め立てや干拓による生息域の減少も起こっています。

●魚よりプラスチックが多くなる?!

残留性有機汚染物質を吸着したマイクロプラスチックを魚等がプランクトンと間違えて誤食し、食物連鎖により生物濃縮が起こります。

●その他、海の問題は、乱獲、混獲、IUU漁業(違法・無報告・無規制・人権問題(漁船乗組員の働かされ方))等、深刻です。

ほとんどが輸入に頼っている

〈油〉

●八王子の学校給食では国産油(米油)を使っているけれど...

一般的な「サラダ油」のほとんどは、遺伝子組み換えの輸入なたねや大豆等が使用されています。
穀物価格高騰が大きく影響しています。

食料を大量に輸入している日本は、生産国の水を大量に消費し(「バーチャルウォーター」)、水不足などを引き起こしている可能性があります。また、食料の輸入量と運ぶ距離を掛け算して出す「フードマイレージ」がとても高く、食料輸入のために大量の石油を使い、二酸化炭素を排出していることを意味します。つまり日本の食料事情は、地球環境に大きな影響を及ぼしているのです。

CSまちデザインでは、この事実と向き合い、地球にやさしい食のあり方を考えるため、小中学校での出前授業などを行っています。

NPO 法人コミュニティスクール・まちデザイン 理事長：近藤恵津子
→<https://cs-machi.com/>

インフォメーション

東京大学 大学院教授

鈴木宣弘さん講演会

「世界で最初に
飢えるのは日本」
著者

(仮)「世界で最初に飢えるのは日本」
っていうのは本当ですか?

日時:2024年4月13日(土)14時~16時
会場:クリエイトホール

主催:生活クラブ運動グループ 八王子地域協議会



■玉正さやか

文教経済委員
国民健康保険運営協議会会長

質疑動画は
こちらから



玉正さやかの
HP・インスタを
チェック!



HP



高齢者が自分らしく安心して 地域で暮らし続けるために

市で行った調査では最期まで在宅での生活を望む人が大変多いことが分かりました。在宅を支えるための移動支援の整備や地域ケア会議の実態を伺うと共に、小規模や定期巡回など事業所の整備促進を求めました。また、**認知症の方が安心して暮らし続けるために当事者への実態調査だけに留まらず、家族介護者の実態把握の必要性を訴えました。**介護保険制度の改定については、実情に沿った慎重な検討を引き続き国へ要望することを求めると共に、改定によって想定される重度化防止や介護者への支援の充実を求めました。

ケアリーバー（社会的養護経験者） へ支援の輪を広げるために

児童養護施設や里親の元を離れた若者が自立するためには様々な困難を抱えています。市で行っている若者の就労支援、居住支援、経済的困窮の取り組みを伺いました。そして、**ケアリーバーへの支援の必要性を訴え、一番身近な自治体である市が実態を把握し、必要な支援に繋がってもらいたいと要望をしました。**市長より、ケアリーバーや困難を抱えた若者が孤立することなく、社会とつながりをもちながら成長していけるよう当事者の立場に理解を求め、地域や関係機関とともに支援に努めていくとの答弁がありました。



■金子アキコ

厚生委員 議会運営委員
まちづくり公社諮問委員

質疑動画は
こちらから



金子アキコの
HP・インスタを
チェック!



HP



開かれた「あるけるまち」を 目指してー公共施設の アクセシビリティと情報保障

市内に住む身体・知的・視覚・聴覚障がい当事者が外出や情報を得る際に直面する様々な社会的障壁について取り上げ、当事者が求める合理的配慮の在り方・考え方をもとに市の施策の更なる改善を求めました。**市長より、国に先駆けて障がい者差別禁止条例を打ち出した自治体として、障がい当事者の声を聞きながら一層のバリアフリー化、情報保障に努めていくとの答弁がありました。**

このまちで育つ 外国ルーツの子どもたち

公立小中学校に通う外国ルーツの子どもたちについて、日本語指導が必要な子どもたちの学校生活・学習支援、外国ルーツの保護者への支援について現状を確認。外国ルーツの人々を受け入れる上での合理的配慮ともいえる「やさしい日本語」（日本語初心者にわかりやすい日本語のこと）を紹介し、**やさしい日本語を用いた双方向のコミュニケーションにより、学校という小さな社会の中で多文化共生社会の素地を築いていこうと提案しました。**

■「ALPS 処理水の海洋放出の中止を求める意見書」を提案
関係者や国内外の住民の意に反し、民主的なプロセスを経していないことや、放射能汚染が残ること、自然環境への影響も大きいことなどから提案しましたが、否決されました。

■補正予算・・・東浅川・南大沢保健福祉センター浴室廃止について反対しました。
■2022年度決算認定に反対・・・川口土地区画整理事業、マイナンバー制度、改正個人情報保護制度、GIGA スクール構想、男女共同参画推進条例（現行の内容について）、子宮頸がんワクチン・コロナ感染症ワクチン推進、国民健康保険税制度について反対。
■決算総括質疑・・・男女共同参画事業について：相談事業の実態を伺うと共に、所管の連携や相談しやすい体制の整備を求めた（玉正）。有機物の資源化について：土壌改善を行う市民・団体に剪定枝・落ち葉等資材を譲渡する仕組み作りと環境譲与税の用途を問うた（金子）。